

1. 地区の概況

図1 地区の位置

*地形図は国土地理院 基盤地図情報(数値標高モデル)5mメッシュにより作成

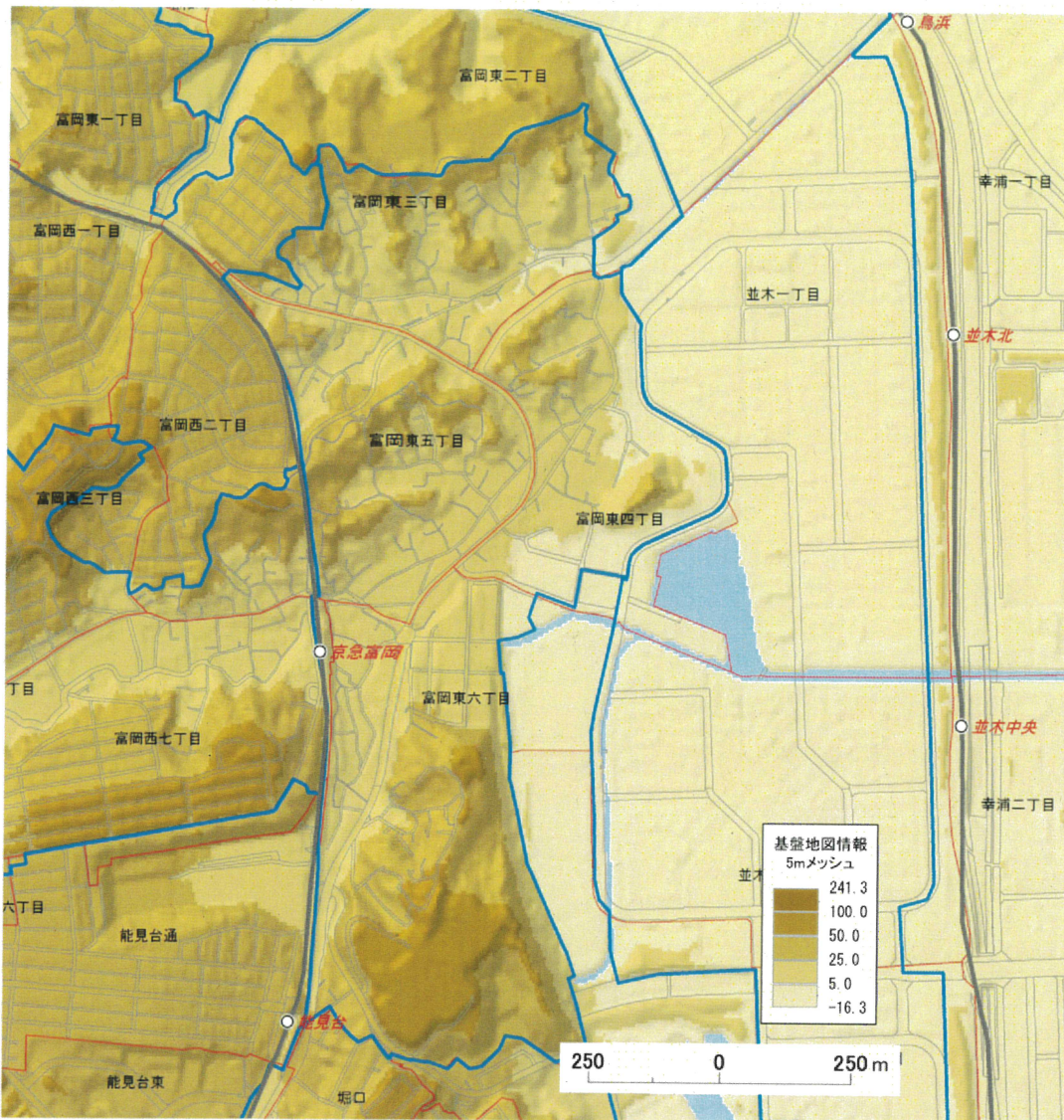


表1 人口、世帯数、年齢別人口等の動向

	平成20	平成25	平成30	平成20 ~25年	平成25 ~30年	平成25 年比率	平成30 年比率	平成30年 区平均	平成30年 市平均
人口 (人)	7,353	7,264	7,430	▲ 89	166	100.0	100.0	100.0	100.0
0~14歳人口 (人)	847	823	872	▲ 24	49	11.3	11.7	11.6	12.4
(内0~5歳) (人)	297	338	417	41	79	4.7	5.6	4.1	4.7
15~64歳人口 (人)	4,992	4,680	4,556	▲ 312	▲ 124	64.4	61.3	59.5	63.4
(内20~24歳) (人)	443	344	383	▲ 99	39	4.7	5.2	5.3	5.3
(内25~39歳) (人)	1,693	1,456	1,358	▲ 237	▲ 98	20.0	18.3	15.1	17.8
65歳以上人口 (人)	1,531	1,761	2,002	230	241	24.2	26.9	28.9	24.2
(内65~74歳) (人)	894	955	1,016	61	61	13.1	13.7	14.8	12.1
(内75歳以上) (人)	637	806	986	169	180	11.1	13.3	14.1	12.1
世帯数 (世帯)	3,447	3,503	3,732	56	229				
平均世帯規模 (人/世帯)	2.13	2.07	1.99					2.29	2.10

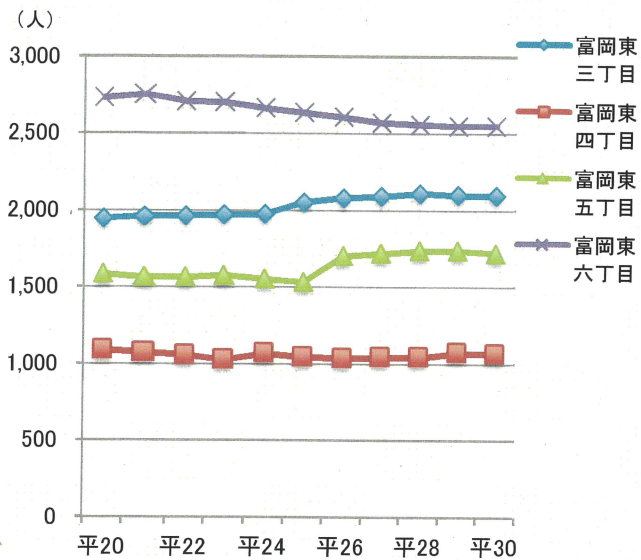
*「町別世帯と人口」、「町別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在

*人口等の統計データは町丁目単位で集計されたデータを活用しています。

*町丁目の境界線が複数の区域にわたる場合は、町丁目の区域を単位としていずれかの区域に含まれるものとして集計しました。

2. 町丁別人口世帯の動向 *「町丁別世帯と男女別人口」による。各年9月末現在

図2 町丁別人口の動向



富岡第二地区には、平成30年9月現在、約7,430人が暮らしています。世帯数は約3,730世帯、平均世帯規模は1.99人/世帯です。(表1参照)

平成25～30年の期間で見ると、人口、世帯数はともに増加しています。

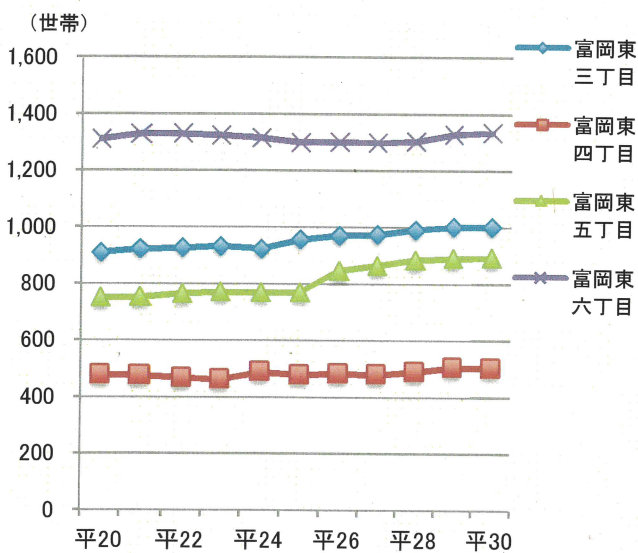
世帯規模は縮小する傾向が続いており、平成30年の平均世帯規模は市の平均(2.10人/世帯)、金沢区の平均(2.29人/世帯)をいずれも下回っています。(表1参照)

平成30年時点の65歳以上の人口比率(高齢化率)は、26.9%で市平均(24.2%)を上回っているものの、区の平均(28.9%)は下回っています。高齢化率は5年間で2.7%上昇しました。

0～14歳の人口(年少人口)はわずかに増加し、比率は微増です。

15～64歳の人口(生産年齢人口)は減少が続いており、比率も低下しました。(表1参照)

図3 町丁別世帯数の動向



富岡第二地区には4町丁が含まれています。

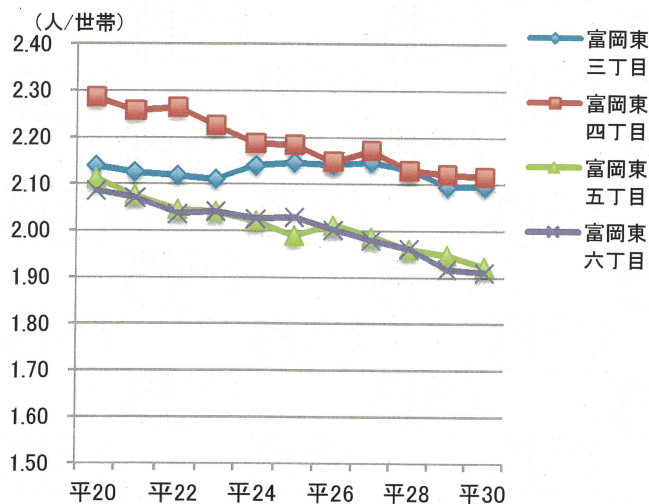
富岡東五丁目は平成26～27年に人口、世帯数ともに増加しました。近年は、4町丁とも、人口、世帯数はおおむね安定しています。(図2,3参照)

富岡東六丁目では、世帯数は安定しているものの人口が減少する傾向(世帯分離が進行し地区外に転出する傾向)が見られます。

富岡東三丁目で一時期平均世帯規模が緩やかに上昇しましたが、近年は4町丁の世帯規模はいずれも小さくなる傾向があります。(図4参照)

富岡東五丁目、六丁目の世帯規模が市、区の平均を下回り小さくなっています。(表1、図4参照)

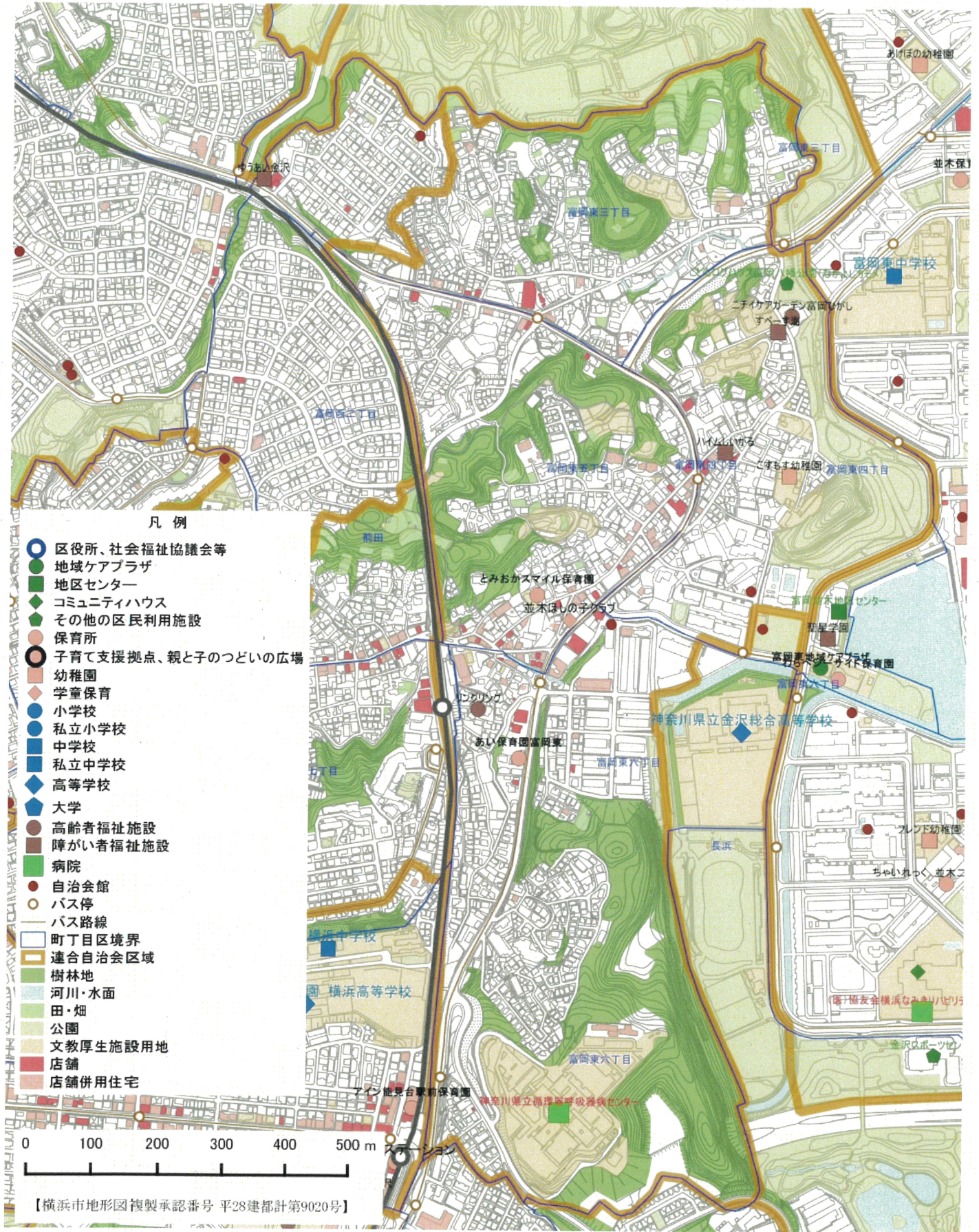
図4 町丁別平均世帯規模の動向



3. 地域の施設等の分布状況

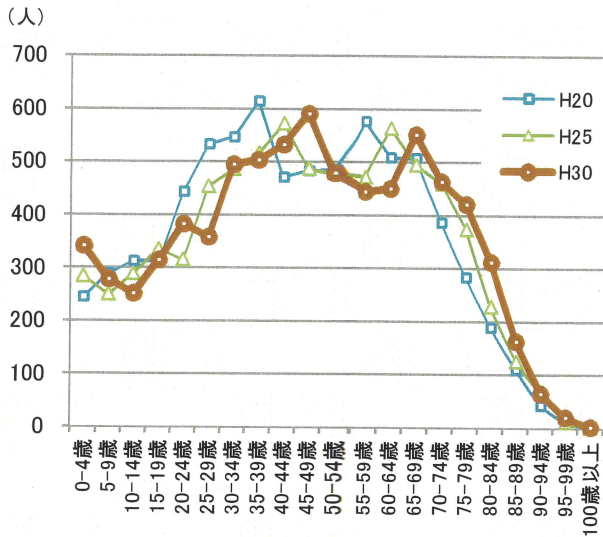
図5 地域の施設等の分布状況

*土地利用現況、建物用途現況は、横浜市都市計画基礎調査結果による。
 *施設の位置は、金沢区オープンデータ等による。



4. 年齢別人口と人口移動

図6 年齢5歳別の人口の変化



*年齢別人口は「町丁別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在
*移動人口は平成13～28年の人口移動集計結果による

図7 年齢5歳別の人口の推移率

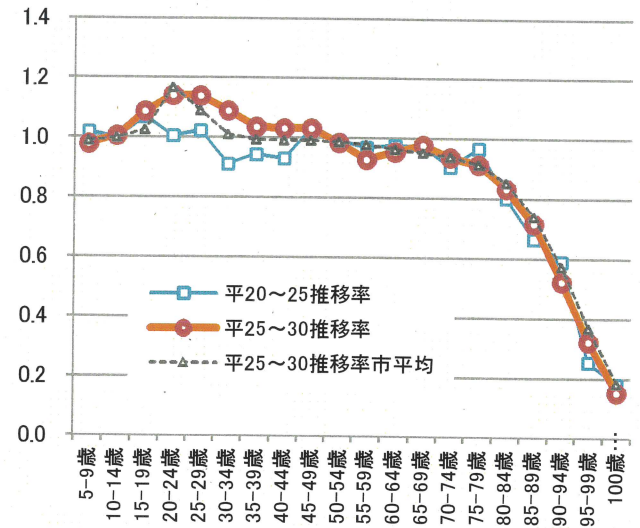
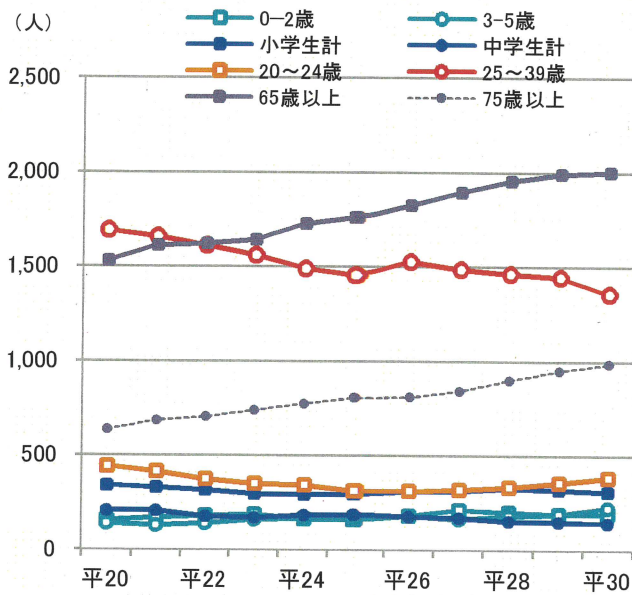


図8 年齢別人口の変化



*推移率:上記の場合は、年齢5歳階級人口の各階級の人口が、死亡、転入によって5年後に1階級高齢の人口になる割合

富岡第二地区の年齢別人口は、25～74歳の各年齢の人口が概ね500人前後で安定しグラフ右側に移動しています。(図6参照)

年齢別人口の推移率は、平成25～30年には10～49歳で、いずれも1.0を上回るようになっており、この年齢層が転入増加したことがわかります。(図7参照)

25～39歳(子育て世代)が減少傾向になるのが一般的ですが、減少傾向が弱いことがわかります。(図8参照)

人口の移動も安定しており、近年は、転入・転出の差が小さい状態が続いています。(図9参照)

平成28年の社会移動を見ると、20歳代の転入増加傾向が続いており、30歳代の転出減少が弱まってきていることがわかります。(図10参照)

図9 人口移動の動向

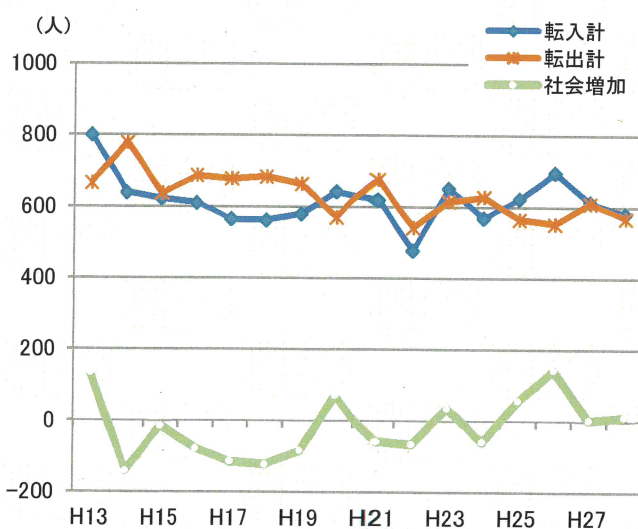
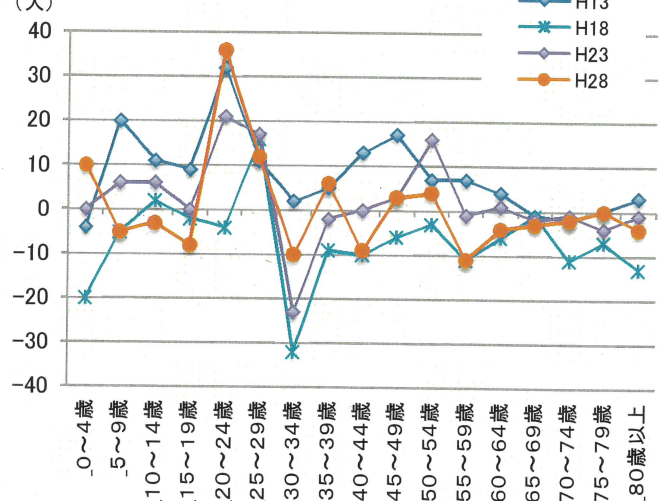


図10 年齢5歳別社会移動人口の動向



5. 世帯の状況と居住歴

*各年「国勢調査」結果による

図 11 6歳未満の子どもがいる世帯の動向

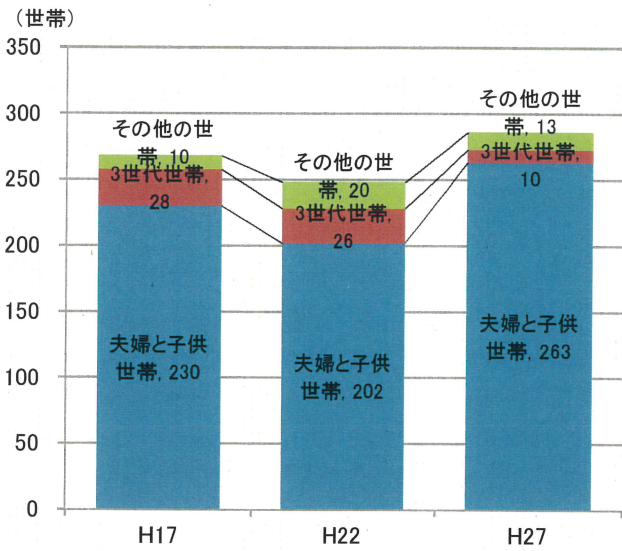


図 12 65歳以上の高齢者がいる世帯の動向

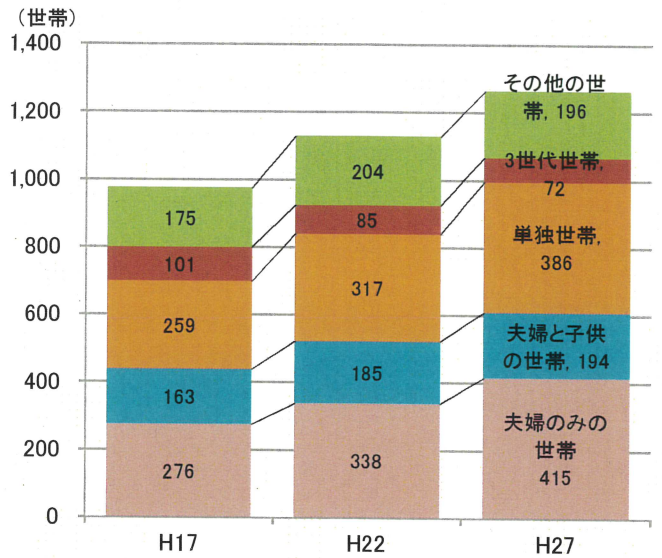


図 13 住宅の所有関係別の世帯の動向

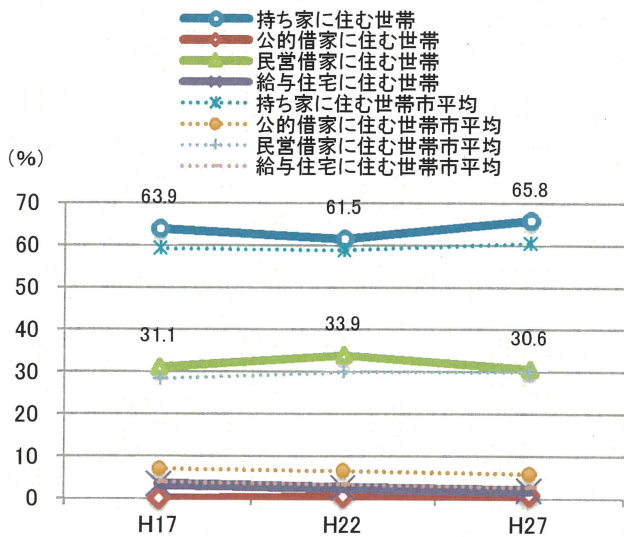


図 14 住宅の建て方別の世帯の割合

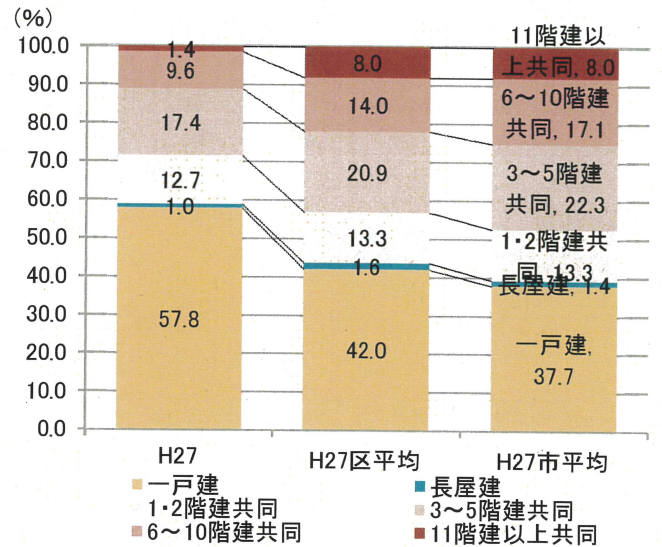


図 15 規模別世帯の動向

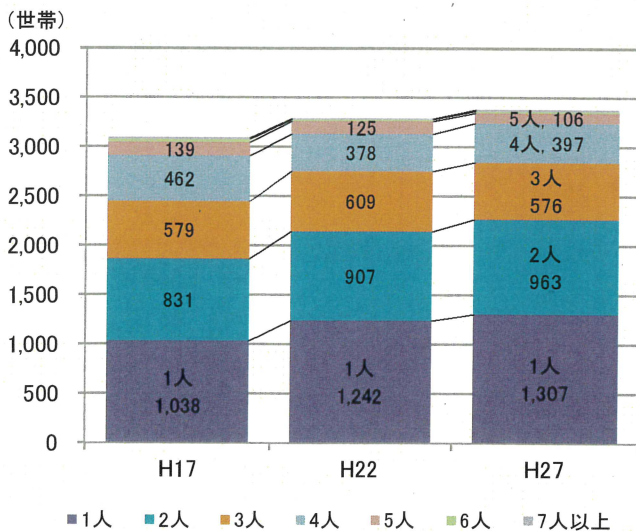
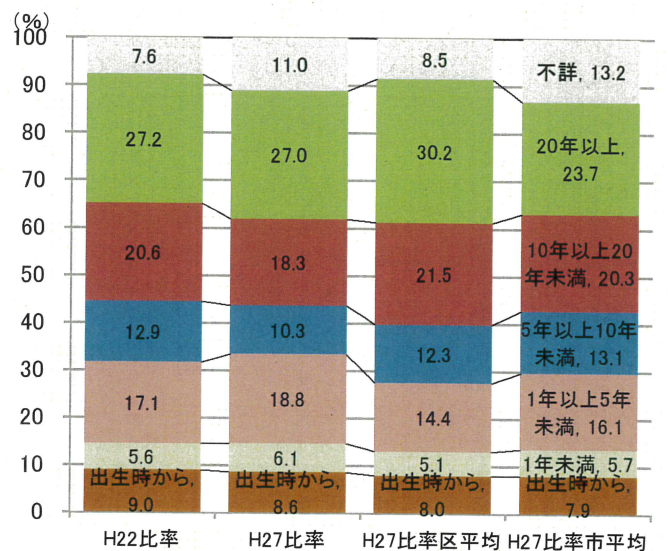


図 16 居住歴別人口の割合



6. 65歳以上の高齢者のいる世帯、要介護認定者数

表2 高齢者のいる世帯の状況 (H31)

	高齢独居世帯数 (男性高齢者)	高齢独居世帯数 (女性高齢者)	高齢者のみ世帯数 (単身世帯除く)	高齢者を含む世帯数 (高齢者と高齢者 以外で構成)
世帯数(世帯)	149	322	321	636
対世帯総数比率(%)	4.0 (区平均 4.8)	8.6 (区平均 11.7)	8.6 (区平均 14.3)	17.0 (区平均 26.9)
対高齢者のいる世帯数比率(%)	23.4 (区平均 17.9)	50.6 (区平均 43.4)	50.5 (区平均 53.2)	100.0

*横浜市資料による。2019年3月時点。世帯数は住民基本台帳による

*高齢独居世帯は65歳以上の方1名で構成される世帯

*高齢者のみ世帯は、65歳以上の方のみで構成される2名以上の世帯

*高齢者を含む世帯は、65歳以上の方と、65歳未満の方で構成される2名以上の世帯

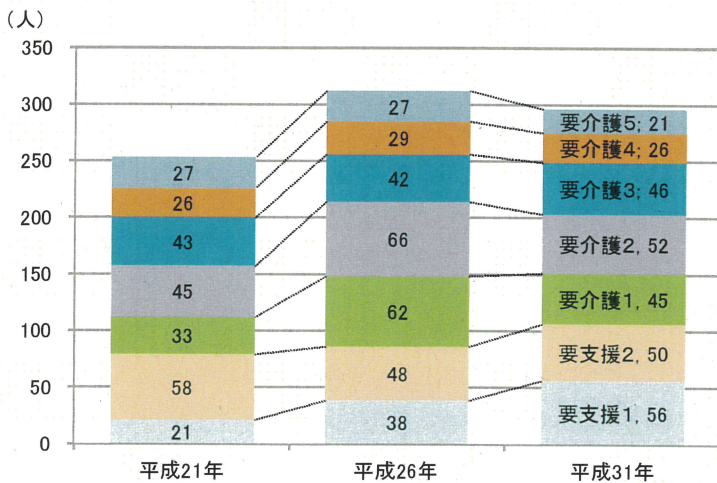
表3 要介護認定者数 (H31)

	計	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
要介護認定者数(人)	296	56	50	45	52	46	26	21
人口比(%)	3.99	0.75	0.67	0.61	0.70	0.62	0.35	0.28
人口比区平均(%)	4.70	0.73	0.64	0.74	1.00	0.61	0.58	0.40
要介護認定者総数比(%)	100.00	18.92	16.89	15.20	17.57	15.54	8.78	7.09
区平均(%)	100.00	15.46	13.69	15.82	21.31	12.93	12.34	8.45

*要介護認定者数は、金沢区資料による。平成31年3月末時点

*地区別人口は、「町丁別の人口(住民基本台帳による)」により集計。平成31年3月末時点

図17 要介護認定者数の動向



*各年、要介護度別認定者数は金沢区資料による。

7. 地区の特徴と動向

富岡第二地区は、京急線の東側にそって台地の上や谷戸に形成された住宅地です。

地区の西側中央に京急富岡駅があります。

戸建て住宅に住む世帯の比率は約 58%で区の平均(約 42%)を上回っています。3～5階建ての共同住宅に住んでいる人が約 17%、次いで1・2階建ての共同住宅が約 13%、6～10階建ての共同住宅が約 10%です。(図 14 参照)

持家に住んでいる世帯の比率は平成 27 年で約 66%です。民間の借家に住む世帯の比率は約 31%です。(図 13 参照)

居住期間が長い人が多くなっています。平成 27 年時点で、居住期間が「10年～20年未満」(約 18%)と「20年以上」(約 27%)の比率は合計すると約 45%になります。

居住期間が5年未満の割合が区や市の平均と比較してやや高くなっています。(図 16 参照)

6歳未満の子供がいる世帯は平成 17～22年の期間は減少していましたが、平成 22～27年の期間は増加しました。(図 11 参照)

65歳以上の高齢者のいる世帯数は増加する傾向にあります。高齢者の単身世帯や夫婦のみの世帯の増加が目立ちます。(図 12 参照)

平成 27 年で65歳以上の高齢者のいる世帯(約 1,263世帯)のうち、約 33%が高齢者の夫婦のみの世帯、約 31%が高齢者の単身世帯です。これら高齢者だけで暮らしている世帯は、高齢者のいる世帯全体の約 64%を占めています。(図 12 参照)

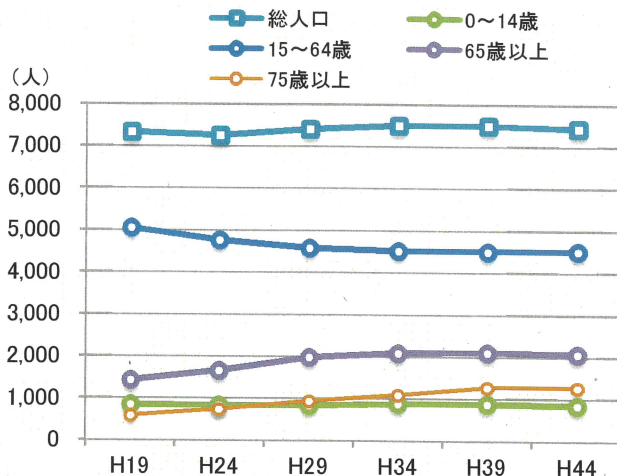
平成 29 年時点の高齢者のいる世帯の比率は約 39%で、区の平均(約 43%)を下回っています。また、要介護認定者の人口比率は約 4.4%で、区の平均(約 4.7%)をわずかながら下回っています。(表 2.3 参照)

今後、高齢期を控えた年代が順次高齢人口になっていきます。(図 6.7 参照)

この結果、生産年齢の人口の減少は今後も続くと考えられます。(図 18 参照)

今後順次高齢期に入る年代の人口が、現在 65～69歳の人口に比べて少ないので、高齢者は今後5年は増加をつづけその後増加傾向は緩やかになります。(図 6.18, 19 参照)

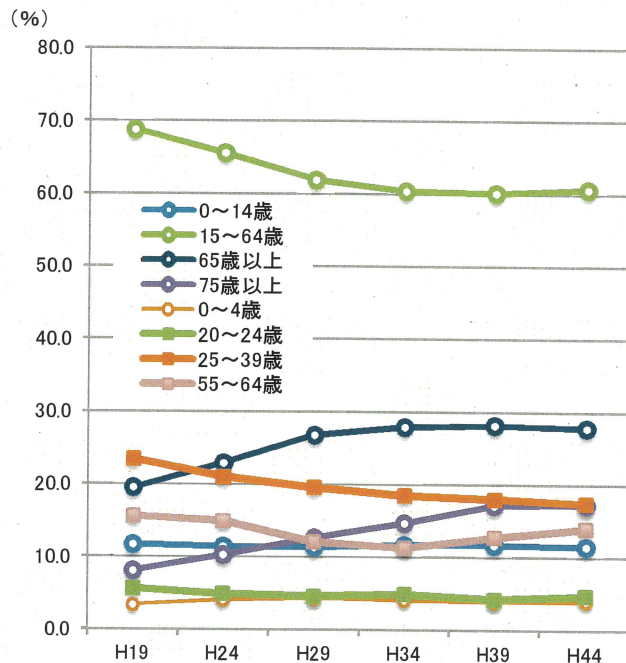
図 18 人口の動向と推計



*平成 24～29 年の年齢 5 歳別人口の変化の傾向が続くものとして推計した値です。

*平成 34 年以降が推計値です。

図 19 人口の動向と推計 年齢別比率



また、現在の 75～79 歳の人口に比べて、今後 75 歳以上になる人口が多くなっているため、75 歳以上の高齢者は増加が続きます。(図 6.18, 19 参照)

世帯規模の縮小傾向も続いており、結果的に、人口はゆるやかに減少していくと考えられます。(図 18, 19 参照)